

海峡と歴史のまち 下関

な か お とも あ き
下関市長(山口県) 中尾友昭

Tomoaki Nakao



海峡のまちに住む

下関市は、本州の最西端に位置し、三方が海に開かれた自然と文化に恵まれた海峡と歴史のまちです。

市長執務室からは、本市のシンボルである関門海峡を間近に眺めることができます。対岸には、北九州市の門司港レトロ地区があり、最近では、両市とも夜の景観に力を入れています。

対岸の北九州まで一番近いところは、約600m、初めてご覧になった方は、川と間違えることも多いようです。

この海峡は、わが国の歴史の十字路口でもあります。今から遡ること831年前の



火の山公園から見下ろす関門海峡

1185年、この海峡の壇ノ浦沖で源平最後の戦いが、404年前の1612年には、巖流島で武蔵・小次郎の決闘が行われました。江戸時代には、北前船最大の寄港地として大阪と並ぶにぎわいを見せ、幕末には、高杉晋作率いる奇兵隊が活躍しました。

その後、大陸への玄関口として繁栄し、さらに明治・大正・昭和と捕鯨のまち日本一としても栄え、昭和40年代には、魚市場の水揚げ高・日本一となりました。

また本市は、わが国の重要拠点港湾です。韓国、中国への国際定期フェリーやコンテナ船、アフリカへの中古自動車輸出基地であり、海上自衛隊や南極海の鯨調査船団の入港地でもあります。

その他にも、エメラルドグリーンの海に浮かぶ角島大橋や、河畔に無数の幻想的な光を映し出すゲンジボタルなど、自慢すべき地域資源をたくさん有しています。

夢は長靴をはいた税理士だった

私は、地元の商業高校を卒業して魚市場に就職しました。深夜1時からの荷役作業で体を鍛え、ふく(下関では、「ふぐ」のことを「ふく」という)のセリ人で心を鍛え、漁業者との付き合いで酒を鍛えました。

体が丈夫で心が折れず、酒に強いというのは、市長の基礎力3要素だと思っています。ただし、この3要素だけでは市長にな



「死ぬまでに行きたい! 世界の絶景」に選ばれた「角島大橋」

れず、ほかの市長さんと同じく勝負は人間力だと実感しています。

魚市場に勤めていたころ、将来は魚市場のサービスとして、零細漁業生産者の経営・税務のアドバイザーになることを夢見ていました。深夜作業の合間に税理士試験の勉強に取り組み、25年の歳月をかけて税理士資格を取得しました。資格を取得するまでの間、魚市場役員、市議会議員、県議会議員を経て、市長には、最初の選挙で落選という挫折を味わいながら、再チャレンジして、現在2期目を迎えています。

税理士の方は、事務所は立ち上げたものの、夢はまだ道半ばです。市長就任後、私自身が下関市役所の簿記学校の校長とな



小学生との「ふく引き教室」で「ふくさし実演」をする筆者

「ふくさし講習会」を行う等、包丁一本で観光振興にも貢献しています。

また、カラオケが好きで、十八番は北島三郎の歌です。特に海の歌は、魚市場で仕事をしてきたので海の男の気持ちがかかります。宴席などで、人が大勢いる時は、音量をあげて北島三郎を、女性が多く私の歌を聞いてあ

り、1級資格を持つ職員とチームを作り、市役所全体の簿記資格取得に努めています。現在では、約3000人の職員のうち、約20%の職員が資格を取得し、自治体ではダントツの日本一です。

趣味というほどのものではありませんが、妻と一緒に家庭菜園を楽しんだり、年に数回の軽登山と温泉に出掛けたり、簿記・会計学の研究に取り組んでいます。それらに加え、私は、全国で唯一、市長でふく処理の免許を持っていると自負しており、下関ふくの伝道師として頑張っています。職員には、あらゆる機会を通じて、「ふくさし」作りを伝授し、さまざまなイベントでの「ふくさし実演」や、下関にお越し

げようという優しい雰囲気があるときは、五木ひろしの「山河」を熱唱します。

カラオケを歌いながら、政治家として、名曲の歌詞に恥じない活動を継続しているか、常に自問自答しながら毎日を過ごしています。

二度とない人生だから

私の座右の銘は「継続は力なり」です。今までさまざまな取り組みをこの言葉で実現してきました。継続すれば必ず力になる。力になっていなければ、まだ継続が足りないのだと思っています。

坂村真民氏の「二度とない人生だから」の詩は、心の支えです。稲盛和夫氏の「人生の目的」の言葉も私を鼓舞します。この2人のほかにも、著名な方の言葉を時折引用させていただき、就任以来7年間、毎朝「市長通信」として10000字程度のメッセージを職員に送信しています。この市長通信は、生活の一部になっており

職員と一緒に仕事をしているという私からのメッセージであり、心の健康に大きく貢献しています。

健康法は、規則正しい生活をする事、毎日のジョギングやラジオ体操、妻の手作り弁当などです。自分自身をさらに鍛えるため、昨年は人生



「下関海響マラソン2015」のスタート風景

初の「下関海響マラソン」フルマラソンに挑戦しました。残念ながら30km地点でタイムオーバーとなりましたが、今年も再挑戦します。

その他に大切な言葉として、私は、「おい、あ、く、ま」の5文字、つまり「怒るな、威張るな、焦るな、腐るな、負けるな」を心掛けています。特に、「怒るな、威張るな」の2つに気を付けています。心掛けるべきは威張ることではなく、多くの人々のおかげで大きな仕事をさせていただいていると、感謝することです。そして最後の「負けるな」は、他人への挑戦の意味もありますが、それ以上に自分に負けないことが大切だと考えています。

これからも、二度とない人生を悔いのないように、私のモットーである「笑顔・元氣・思いやり。今日も市民のために、がんばろう!」を常に心掛けて、わが故郷・下関の発展のために邁進していきます。